



社会福祉

法

人

豊中市社会福祉協議会

# ボランティアセンターだより

第59号 2014年(平成26年)3月31日

発行 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより編集委員会

〒560-0023 豊中市岡上の町2-1-15

Tel (6848)1000 FAX (6848)1005

URL: <http://www3.ocn.ne.jp/~tcpvc>E-mail: [tcpvc@gold.ocn.ne.jp](mailto:tcpvc@gold.ocn.ne.jp)

ボランティアグループ  
あれこれ

市社協登録ボランティアグループ

## 「ズームイン」編

「ズームイン」は映像を通して、福祉活動やボランティア活動を多くの人に紹介し、より深い理解につなげることと、貴重な記録としての保存用データを作成するために活動しているグループです。

メンバーは少人数ですが、ビデオカメラ片手に悪戦苦闘しながら、撮る楽しみ、作品にまとめる楽しみ、みんなで鑑賞し、批評しあう楽しみと、「楽しみの魅力」いっぱいのグループです。

「少ないメンバーですが、それぞれにやりがいを感じながら、充実した活動を行っています。ボランティアフェスティバルなどの他、最近では校区福祉委員会からの依頼で地域イベントなどの記録も行うなど、幅広い活動を行っています。」と、リーダーの小谷さん。

今後も各種講座や講演会など、イベントの記録撮影を中心に、エンジ色の「ズームイン」ジャンパーを着用し、精力的な活動を行っています。



各種講演会で  
撮影する  
「ズームイン」  
メンバー



◎活動に興味のある方は・・・ご見学、お問合わせください。

☆定例会

日時：第2火曜日 10時00分～

場所：ボランティアセンター「ぷらっと」

☆お問合わせ

豊中市社会福祉協議会 ボランティアセンター「ぷらっと」

豊中市岡上の町2-1-15 (豊中市すこやかプラザ2階)

☎ 06-6848-1000



手話、点字、ホームページ作成、折り紙、高齢者疑似体験など、各種体験コーナーでは、参加者がそれぞれの体験を楽しみました。



# 第21回 豊中ボランティアフェスティバル

H26. 2. 8 (土)  
すこやかプラザ



ステージでは府立桜塚高校軽音楽部の演奏に始まり、グループによる活動発表、とよなか地域ささえ愛ポイント事業紹介寸劇、最後はボランちゃんのうたを手話コーラスで歌いました。全ての発表の手話通訳と要約筆記もボランティアグループが担いました。



# 講演「陸前高田市の被災状況と今、そして復興へ」

岩手県 陸前高田市  
市長 戸羽 太さん

ボラフェス午後の部では、府立豊中高校生による震災被災地支援ボランティアバス報告に続き、戸羽陸前高田市長による講演がありました。他にも、震災支援活動パネル展示、東北支援物産展も実施しました。物産展も豊高のみなさんが運営し、若い力を発揮しました。



あれから三年経つ被災地の現状とこれからの展望に多くの聴衆がききいりました。



夏休みに31名で参加した高校生がボランティアバス報告。物産展もがんばりました。

Vフェス新企画お楽しみ抽選会で、戸羽市長から陸前高田市特産品を受け取る当選者



ボラフェスカフェは150人以上が利用しました。



おにぎりと味噌汁の販売は好評でした！



これ以上ないという絶望を体験され、この悲劇と教訓を風化させないために

- ・奇跡の一本松保存募金の実施
- ・図書館の設置（図書館夢プロジェクト）
- ・仮設住宅の移転
- ・自主防災組織作り等のマニュアル作成

に取り組まれています。

家族を探す人たちの気持ちを大切にしたいと、各省庁の規制の難しさが復興を妨げ、進めないもどかしさに“臨機応変の決断が必要です”と切実さを訴えられました。また、ボランティアさん達へ感謝の言葉もお聞きしました。

高台移転（27ヶ所）は、莫大な土砂削除、高齢化率等の困難さが伝わり、あと5年で子どもたちが安心して暮らせ、未来につながる街に、また、弱者と呼ばれる人たちを笑顔で助け合える街にと決意の強さを語られました。

（K・Y）

## ヒューマンバザー同日開催！

すこやかプラザ2階、ボラフェスカフェの隣室では、企業・団体ボランティアネットワーク（Vネットとよなか）主催のバザーが実施され、Vフェスの参加者も多数来場され、売上金は福祉の店「なかま」の運営委員会に寄付されました。





### 3. 11復興支援イベント 「支援のつどい」



未曾有の被害をもたらした東日本大震災から三年が過ぎましたが、被災地においては、今後も息の長い支援活動が必要とされています。豊中市社協では、これからも被災地及び被災者に心を寄せた支援活動を行ってまいります。



これまでの被災地支援報告



手作りのキャンドルに参加者それぞれの  
思いを込めて点灯



市社協永井会長より、今後も  
継続支援の誓いを表明

かすかに春のきざしが感じられるものの、雪混じりの寒い東北地方を揺るがし、津波に流されていった多くの命、思い。

3. 11復興支援イベントでは、これまで、市社協が多くのボランティアの方々と共に取り組んできた支援の取り組みの報告、絵本「いつか必ず・・・」の紹介の後、すこやかプラザ屋上庭園で、キャンドルに灯をともしました。雲ひとつない空に月が出て見守る中、豊中びーのびーのメンバー手作りのキャンドルに追悼の想いを寄せながら、光のひまわりを咲かせました。

いつまでも忘れない・・・の思いを込めて。 (K・S)



絵本「いつか必ず...福島から避難してきたお母さんのお話」は、現在、市社協で働く藍原奈々さんが自身の経験を綴りました。

## 災害支援訓練を実施

H26. 1.18 (土) すこやかプラザ



早朝から多くのボランティアが集まり、災害ボランティアセンターで受付を開始



午前7時30分に豊中市全域で震度6強の地震が発生したという想定で訓練を実施。

66名のボランティアに加え、市危機管理室職員、市社協職員合同で、設置した災害ボランティアセンターを中心に、ニーズ聞き取りによるボランティアの需給調整、非常食の調理、テント設営、安否確認、情報発信、防災用品の確認などのシミュレーションを行いました。

福祉避難所の庄本デイサービスセンターに要支援避難者を搬送する想定、避難施設の西丘小学校からの要請で非常食を届けるなどの連携訓練も実施しました。



女性ボランティア中心に  
アルファ米を調理



家庭用防災グッズの展示

## ボランティア はじめま専科



2/28(金)、「みちしるべ」例会の午後、はじめま専科を開催。参加者は2名。まず、「みちしるべ」の概要と活動状況などの説明後、車イスとアイマスクの体験学習を実施、車イスは豊中駅までの往復で、利用者と介助者の立場で体験。アイマスクはすこやかプラザ内の階段などを使って目の不自由な人の体験をしていただき、「みちしるべ」の活動内容を知っていただいた。その結果、2人とも関心を示され、「みちしるべ」への入会を期待している。(M・H)

## ボランティア 研修会



3/7(金)の午前、「肢体不自由者の理解」と題して、NPO 法人 CIL 豊中 理事長の徳山さんにご講演を頂いた。参加者は21名。

講演内容は、少年時代のプールでの事故で、脊椎損傷という重傷を負い、以後手術、リハビリを続け、自立生活に至るいろいろな苦労や不自由など多くの体験から障害者の福祉や介護の関係のNPO 法人 CIL 豊中を立ち上げ、ヘルパー派遣、訪問介護など、少しでも社会の役に立てるようにということで、活動を続けておられる。(M・H)

## ボランティア活動手記 ～こんな活動しています～

「お変わりございませんでしたか？」の言葉から今日も利用者さんとの会話が始まります。

私たちは『聴くの会』という電話を通じてひとり暮らしのご高齢者の方とお話をさせて頂くボランティアグループです。

その日の出来事や季節のこと、あるいは辛い体(心)の痛みやご近所付き合いのことなど、その時々で色々な話題が飛び出します。

私は、時におせっかいなおばさんとなって助言をさせてもらうこともあれば、時には娘のように優しく人生の助言を聴かせて頂きながら、共にひとときを過ごします。

利用者が語られる長い人生のエピソードを伺ううちに、自分の来し方行く末を見つめる時間となることもあります。

楽しかった事があった日は、一緒に朗らかに笑いあいます。「痛い、辛い」と沈まれる時は、ただただ頷くばかりで、励ましの言葉すら見つからないことも……。けれども、たとえ元気とまではなれなくても、そのひとときを「なんや、ホッとできたな」と感じて受話器を置いて頂けたらと願いつつ、今日も電話のボタンを押しています。

(聴くの会 H・K)

「みちしるべ」の主な活動として、小中学校でのボランティア体験学習での指導、手伝いがあり、車イス、アイマスク体験を担当している。

この体験学習では、子どもたちに、障害を持った人への思いやりなどを実感してくれることを期待。その他、高齢者施設や障害者施設などでの行事の手伝いや精神障害、言語障害、難病の会等でのリハビリの手伝い等、多岐にわたっている。

私たちの活動は明るく、楽しい雰囲気の中でボランティアができることに喜びと幸せを感じている。ボランティア活動以外でも、季節ごとのハイキングやバーベキューなどのレクリエーションにも積極的に参加し、和気あいあい楽しいひとときを共有し、これがわたしたちみちしるべの活動の大きなエネルギーになっている。

(みちしるべ M・H)



# こころのボランティア講座

## 《講座のプログラム》

① 11月15日(金)

講話『精神障害者を理解するために』 豊中市保健所  
『精神障害者の想い』 当事者

② 11月18日(月)

講話『社会資源の紹介』 豊中市役所障害福祉課  
『当事者家族の想い』

豊中市精神障害者家族ゆたか会

『ボランティア体験談』

市社協登録ボランティア



体験談に聞き  
入る参加者

平成17年から始めている精神障害者への理解を深めていくための講座です。  
今年度は、2日間で延べ22名の方が参加され、受講後、希望者は地域活動支援センターの見学も行いました。

### ★★★★参加者より★★★★

- ・当事者や当事者家族の話が心に残りました。意識が変わったように思います。
- ・福祉サービスの内容などが分かり勉強になりました。
- ・気持ちが前向きになりました。

## ちょボラサロン『えがお』ってな～に！？

平成16年より、精神障害者の社会参加のステップ、地域交流の場、ボランティア活動を実践していく場として、ちょボラサロン『えがお』が誕生しました。協力機関や市民ボランティアの方々と共に、毎月1回様々なボランティア活動を行っています。



敬老を祝して高齢者施設へ訪問



服部緑地公園で清掃活動



フィリピン台風救援金の募金活動

七夕飾りを作って子育て支援センターへプレゼントしたり、ひとり暮らし高齢者への年賀状を作成したり、活動内容はサロンのメンバーが提案し話し合っています。



こころのボランティア講座修了後  
サロンに協力しているメンバー

講座を受けるきっかけは、知らないことが多かったから。その流れで活動支援センターの見学もでき、大変勉強になりました。サロンでのお手伝いも、はじめは自分に何ができるか分からず不安もありましたが、今は楽しく活動しています。

# ボランティア訪問記

市社協登録Vグループ

「ステッキ」



11月20日「ステッキ」のメンバー9名で「日本ライトハウス情報文化センター」を訪れました。スタッフの視覚障害者の基本的な説明をお聞きした後、点字図書、録音図書の説明、製作現場の見学、色々な便利グッズなどを見させていただきました。すべての面でパソコンの進歩と普及で全国ネットでの広がりには驚きました。それらの製作には多くのボランティアが活躍している様子に嬉しくなりました。録音図書の現場ではイントネーションとアクセントが一番の問題とお聞きし、「そりゃ、あかんわ～」の声に大笑いしました。“進んでいる”と色々なところで感じました。グッズは、日頃お付き合いしている高齢者にも役に立つものがたくさんありました。目まぐるしく発展していく情報化社会で、ドンドン便利になっていくのだろうと思う反面、これから歳を重ねていく私たちの年代にとって便利であっても使いこなせるかな、と心配にもなりました。見えるということに感謝の帰り途でした。

(K・S)

社会福祉法人  
日本ライトハウス  
情報文化センター  
＜住所・連絡先＞  
大阪市西区江戸堀 1-13-2  
06-6441-0015 (代表)  
06-6441-0039 (サービス部)  
＜開館日＞  
火曜日～土曜日  
(日・月・祝日休館)  
午前9時～午後5時



## 年賀状ボランティア



ボランティアの個性あふれる  
手書きの年賀状の数々

今年も、11月～12月にかけて8日間、延べ182名のボランティアさんにご協力いただき、豊中市に独居登録をされているおひとり暮らしの高齢者70歳以上の皆様へ、手作り年賀状を送付しました。ボランティアの皆さんが一枚一枚心をこめて書きあげてくれた年賀状は、今年、5688名の方にお送りさせていただきました。

お送りした年賀状に対するお礼の年賀状もたくさんいただきました。

年賀状作成にご協力いただいた皆さま、どうもありがとうございました。

企業・団体ボランティアネットワークとよなか  
(Vネットとよなか) 主催 講演会

## 『ヒトは食により人となる』 ～食文化が人間を育てる～

“愛された子どもは素敵な大人になる” “あなたはあなたが食べたものでできている” “食卓は命あるもので作られる” “たくさんの命をいただいてあなたの命がひとつにつながっていく”

子どもひとりで作らせる『弁当の日』をスタートし、地域ぐるみの食育を実践されている竹下和男さんの講演会が開かれました。3月8日(土)、寒い日でしたが、多くの人が時に涙し、時に笑い声あり、時に反省のため息が漏れる、盛り上がった会となりました。



講師の竹下さんは元中学校長、豊中では今回初めての講演でした。

参加者の声から

「食事を作る後ろ姿を子どもに見せていきたいと思った」



## 福祉の日



この漫画はびーのびーのプロジェクトメンバーの作品です。

## ボランティア活動 総合保障制度のご案内

安心してボランティア活動や地域活動に取り組んでいただくために、ボランティア活動総合保障制度があり、ボランティアセンターが窓口になっています。

### ◆ボランティア活動保険

(ボランティア活動中の事故に備えていただくもの)

⇒ボランティア活動を行う団体対象

### ◆ボランティア・市民活動行事保険

(主催者が賠償責任を負った場合に備えていただくもの)

⇒スポーツ活動や子ども会活動など各種ボランティア・市民活動団体対象

※不特定多数の方が参加される行事はこの保険の対象にはなりませんのでご注意ください。

※補償内容は毎年変わります。保険加入の際にはご確認ください。

《詳細はボランティアセンターまで  
お問い合わせください》

ニュース!

豊中市社協の  
コミュニティソーシャルワーカーの活動が  
ドラマの題材になります!

「私は、その手を決して離さない」

“孤独”という現代の貧しさに立ち向かう新たなヒロイン誕生

【タイトル】ドラマ10『サイレント・プア』

【放送予定】4月8日(火)スタート

NHK総合

毎週火曜 22:00~22:48(全9回)

【出演】 深田恭子 北村有起哉 桜庭ななみ  
坂井真紀 香川京子 市毛良枝 ほか



豊中市・豊中市社協が  
取材に協力!!  
ぜひ、ご覧ください。

## 編集後記



今年は長く厳しかった寒さのせいで、春の到来はいつにも増して待ち遠しかったです。いよいよ新しい年度のスタートでもあります。明日からも、皆さまとともにボランティア活動の時間を健やかに共有していきたいです。少し前のことになりますが、ボランティアフェスティバルには、前夜からの雪にも関わらず、多くの方にご来場いただき、有意義なものになりました。ありがとうございました。(そよかぜ)